

告 辞



チャレンジの精神を忘れずに！

学長 大六野 耕作

この佳き日に、卒業・修了を迎えられたみなさんに、心からのお祝いを申し上げます。ご卒業おめでとう。また、これまで、卒業生を陰に日向に支えてこられたご家族・保護者の皆さまを日本武道館にお招きし、共に卒業をお祝いできますことを、教職員共々心より喜んでおります。改めまして、ご家族・保護者の皆様にご心よりお祝いを申し上げたいと存じます。顧みれば、本年度の卒業生は入学当初から、新型コロナウイルス感染症パンデミックの直撃を受け、入学式もなく、また入学前に描いていた楽しいはずの大学生活を享受することもままならず、パンデミックがもたらした「生き難さ」（いきにくさ）と格闘する日々が続いたと思っております。そうした困難な状況の中にあっても心折らず、今ある現実から立ち向かい、あらゆる限りの智慧を絞って学業を全うされた皆さんに深甚の敬意を表したいと思っております。

8波に及んだ感染症の拡大と収束の繰り返しは、恰も近代文明がもたらした人間の傲慢さを嘲笑うかのように、拭いきれない不安や恐れ、束の間の安心、事態を打開できないことへの苛立ちや失望の連鎖をもたらし、ある種の「閉塞感」がわれわれの心を支配した時期もありました。大量の化石燃料の消費に支えられた経済活動は、皮肉なことに、人間の生存そのものを脅かす気候変動や環境破壊を生み出し、経済活動を効率化し人間の生活を豊かにするはずであった科学技術が、かえって個人間の格差や社会の分断を生み出す場合があることを、われわれは改めて思い知らされました。また、ロシアによる一方的なウクライナ侵攻によって始まった戦争は未だに終息への道筋が見えず、イスラエルとパレスチナ間の紛争は、世界平和に暗い影を落としています。米ソ冷戦終結後に一気に勢いを得た自由とデモクラシーへの奔流は、多くの国や地域で必ずしも人間の自由、平等の実現にはつながらず、場合によっては、人権を無視した「強権的な専制主義」や「大衆迎合的なポピュリズム」を生み出しています。しかも、こうした問題は相互に複雑に絡み合い、絶えず変動する状況の中で、その解決策を簡単には見通せない曖昧な状況が世界を覆っているようにも見えます。

まさに、われわれは、VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) の時代を生きているのだと思っております。そんな時代にわれわれはどう対応すべきなのか？この問いに答えることが、次の時代を担う皆さんの使命ではないかと思っております。今を去ること170年以上前の1851年・1852年に、本学の創立者である岸本辰雄（鳥取藩）、宮城浩蔵（天童藩）、矢代操（鯖江藩）が生まれますが、彼らのうち2人（岸本と宮城）は、19世紀初頭から始まる世界の大変動（西欧列強間の競合からイギリスを中心とした世界秩序の形成過程）に翻弄されたアジアの一国の人間として、日本の現状をグローバルな視点から分析するため1876年、フランス留学を果たします。帰国後、矢代も加えた3人は、日本社会の近代化とこれを支える法学的知識の普及が喫緊の課題であるとの認識から、20代という若さで明治法律学校を設立するに至ります。

もちろん、われわれが直面している問題の性質は、創立者たちが直面した問題とはその性格を大きく異にしています。しかし、先の見通せない、変化につぐ変化の時代をグローバルな視点から客観的に分析し、さまざまな課題に果敢に挑戦する必要があるという点では、本学の創立者の精神と共鳴するところがあります。

皆さんも、100年に一度という感染症のパンデミックの最中であっても心折ることなく、むしろ、パンデミックがもたらす「生き難（にく）さ」を正面から受け止め、その「生き難さ」の正体を見つめ、グローバルな視点から、人間の本质や、人間社会の将来について、深く思いを致す機会を持たれました。この経験は、この100年間は誰も経験したことのない貴重なものであり、必ずや次の時代を切り拓く様々な知恵につながっていくに違いないと確信しています。本日、卒業・修了を迎えられた皆さんには、在学中に培った知識・知恵・技術、そしてその精神力を総動員して、いま人類が直面している問題に正面から立ち向かい、「人間が人間として生きるに値する豊かな社会（世界）」を創造するための「よい準備」を始めていただきたいと思います。時流に流されることなく、現在起きている事態を冷静に分析し、グローバルな視点から世界のあるべき姿を描き、その実現を図る具体的方策を生み出していただきたいと願っています。

結びにあたり、次の言葉を皆さんに送りたいと思います。

People tend to resist change and often prefer to maintain the status quo. However, avoiding challenges and sticking to the current situation means that regression has already begun.

To challenge means to set high goals and constantly create new things while not accepting the current state. Although the word "challenge" sounds brave and uplifting, it requires support. Courage to face difficulties, unwavering patience, and effort are necessary. (Kazuo Inamori)

人はえてして変化を好まず、現状を守ろうとしがちです。しかし新しいことや困難なことにチャレンジせず、現状に甘んじることは、すでに退歩が始まっていることを意味します。チャレンジというのは高い目標を設定し、現状を否定しながら常に新しいものを創り出していくことです。チャレンジという言葉は勇ましく非常にこころよい響きをもつ言葉ですが、これには裏付けが必要です。困難に立ち向かう勇氣とどんな苦勞もいとわない忍耐、努力が必要なのです。

卒業生、修了生の皆さん、あらゆる困難を乗り越えながら自分らしく「力強く 前へ！」